

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年8月27日（水）

2 確認箇所

- ・使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（図1）
- ・G5タンクエリア（図1）

3 確認項目

- （1）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備の状況
- （2）G5タンクエリアの状況

4 確認結果の概要

（1）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備の状況

東京電力では、各原子炉建屋の使用済燃料プールで保管している使用済燃料について、より安全性の高い共用プールにおいて集中管理するため、各使用済燃料プールから共用プールへの移送を進めている。さらに、今後、1、2及び5号機の使用済燃料を共用プールに受け入れるため、十分に冷却が進んだ使用済燃料は乾式キャスクに装填し、構内の使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（以下「乾式キャスク仮保管設備」という。）に移送することで、共用プールの保管容量確保を進めている。また、乾式キャスク仮保管設備の保管容量が上限に達していることから、既設設備東側において保管容量を拡大するための拡張工事が進められている。

今回は、乾式キャスク仮保管設備の既設部分において、乾式キャスクの保管状況等を確認した。（前回確認：[令和6年1月9日](#)）

- ・防護柵で囲われた敷地内には、台風や竜巻の影響から乾式キャスクを防護するためのコンクリートモジュールが65基設置されていた。その内部を確認したところ、全てのコンクリートモジュールに乾式キャスクが保管されており、空きはなかった。
- ・コンクリートモジュールは、使用済燃料の崩壊熱を自然対流により放散するため、側面下部に給気口、上部に排気口が設けられていた。確認の結果、コンクリートモジュール周辺に物品の仮置きはなく、給排気口を塞ぐなどの不適切な管理箇所は認められなかった。
- ・コンクリートモジュールは、ボルトで基礎に固定されていた。全ての固定ボルトに合いマーク※が施されており、確認した範囲においてはボルトの緩みは認められなかった。

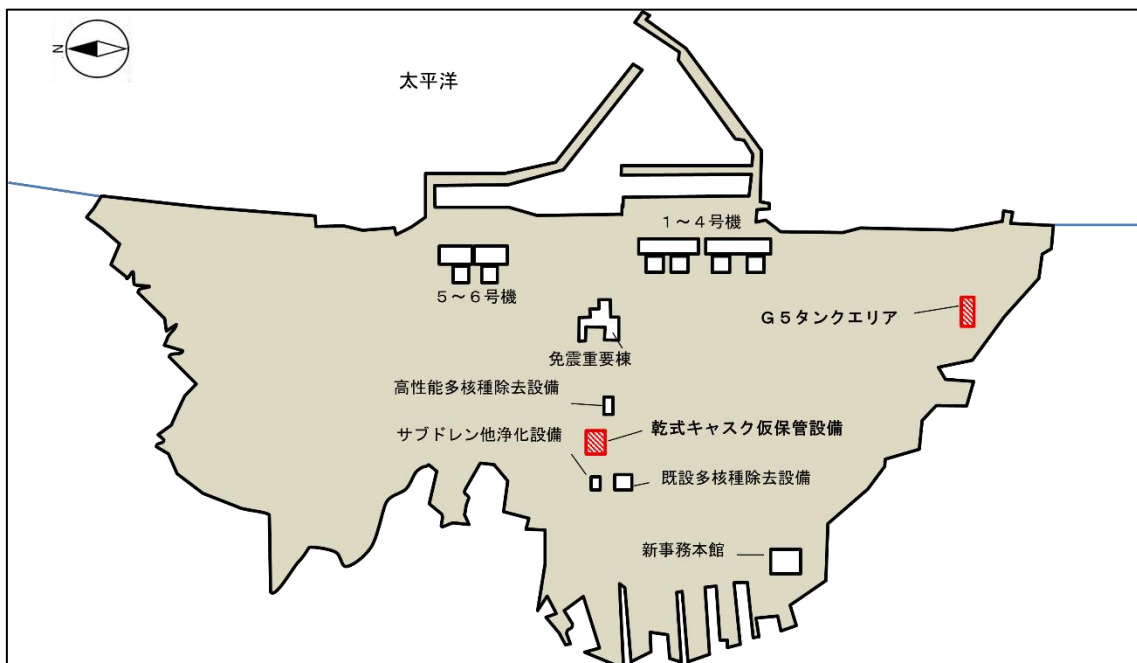
※ 合いマーク：緩みがないことを確認するための印

(2) G5タンクエリアの状況

東京電力では、多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の本年度5回目（総回数16回目）の放出に向けて、G5タンクエリアA/B群のタンクに貯留しているALPS処理水を測定・確認用タンクC群に移送している。

今回は、G5タンクエリアA群においてALPS処理水の移送状況を確認した。（前回確認：[令和7年6月16日](#)）

- ・G5タンクエリアの内堰内には移送ポンプが設置されており、当該ポンプにより移送が行われていた。（写真1）
- ・移送に使用されているホースは青色の漏水防止カバーで覆われており、つなぎ目には養生が施されていた。さらに、その下部には漏えい検知器が入った漏えいパン（地面への漏えいを防ぐ受け皿）が設置されていた。（写真2）
- ・処理水の移送対象であるA群のタンク（A1～A4）を相互に連結する管の弁は『開』状態であり、許可されていない操作が行われないよう南京錠により施錠されていた。（写真3）
- ・確認した範囲において、ポンプからの異音や異常な振動、配管からの移送水の漏えいといった異常は認められなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
ALPS処理水の移送状況
※払出弁から移送ポンプへ



(写真1-2)
移送ポンプの設置状況



(写真2-1)
移送ホース及び漏えいパンの設置状況



(写真2-2)
漏えい検知器の設置状況



(写真3)
連結管の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。